

各位

上場会社名 株式会社 アール・エス・シー
 代表者 代表取締役社長 重安 宏
 (コード番号 4664)
 問合せ先責任者 専務取締役 芳賀 敏晴
 (TEL 03-5952-7211)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,680	90	90	50	17.01
今回発表予想(B)	3,631	57	50	△38	△13.04
増減額(B-A)	△49	△33	△40	△88	——
増減率(%)	△1.3	△36.5	△44.3	△175.0	——
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	3,377	88	88	△107	△36.51

平成21年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,520	180	180	90	30.62
今回発表予想(B)	7,440	115	110	10	3.40
増減額(B-A)	△80	△65	△70	△80	——
増減率(%)	△1.0	△36.1	△38.8	△88.8	——
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	6,889	207	187	△69	△23.58

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,430	90	90	50	17.01
今回発表予想(B)	3,412	55	50	△34	△11.65
増減額(B-A)	△18	△35	△40	△84	——
増減率(%)	△0.5	△38.4	△44.1	△168.4	——
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	3,167	76	77	△102	△34.81

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,050	160	160	80	27.21
今回発表予想(B)	6,982	100	90	5	1.70
増減額(B-A)	△68	△60	△70	△75	——
増減率(%)	△0.9	△37.5	△43.7	△93.7	——
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	6,457	184	161	△71	△24.23

修正の理由

(単独業績予想について)

(1)平成20年9月第2四半期業績予想

当第2四半期累計期間の業績は、売上高につきましては平成20年5月14日の決算短信発表時に公表した平成21年3月期第2四半期累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日)の業績予想のとおり概ね順調に推移し前年同期比245百万円増となりましたが、利益面につきましては、人材の定着を図ることを目的とした給与支給基準の見直しによる人件費の高騰や期初に見込んでいなかった新規警備業務の獲得に伴う人材採用費用の増加、立ち上げ費用の先行投資等により営業利益が当初計画を35百万円下回りました。また、米国のサブプライム問題に端を発した我が国の株式市況の低迷により、当社が保有する組込みデリバティブを区分して測定できない複合金融商品の評価損を営業外費用に8百万円計上し、投資有価証券に関し時価が著しく下落し、その回復があると認められないものにつきましては、減損処理による投資有価証券評価損として特別損失に54百万円計上したことにより当初計画から経常利益が40百万円、当四半期純利益が84百万円下回る見込みとなったことによるものです。

(2)平成21年3月期業績予想

通期業績の修正は、主として、第2四半期累計期間業績予想の修正によるものです。

(連結業績予想について)

(1)平成20年9月第2四半期業績予想

営業利益、経常利益および当期純利益のいずれに関しても、RSC単体の変動を主因とするものです。

(2)平成21年3月期業績予想

営業利益、経常利益および当期純利益のいずれに関しても、RSC単体の変動を主因とするものです。

※ 上記の業績予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって変動する場合があります。

以 上